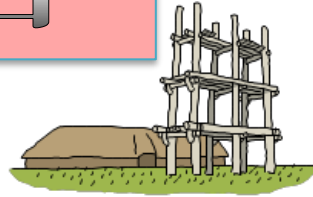


文書館通信

22号

東御市文書館
令和6年
2月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312

東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717

✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

2月28日は、昭和8年に東御市の成立遺跡が国史跡指定されました。それにちなんで、今月は東御市文書館に展示されている、埋蔵文化財に関する資料をご紹介します。

【山越（やまこし）遺跡】（1994発掘調査 発掘調査報告書未刊行）



確実に、この土器が、壺の蓋であることがわかる、出土状況です。

ほぼ完全な形で、土器が残っており、正位（口縁部を上にした位置）で埋設されていました。

蓋付壺形縄文土器（縄文後期）出土状況写真（東御市教育委員会所蔵）

東部湯の丸インターチェンジ附近の「山越遺跡」より出土した、縄文後期（こうき）の蓋（ふた）付き壺形（つぼがた）土器です。

当館にて、蓋を被せた状態で展示中ですが、出土した時から蓋が被せられていたことが確実にわかる、大変貴重な資料です。

残念ながら、詳細な記録は無くこの写真のみで、発掘調査の「記録保存」には充分とは言えませんが、この写真からだけでも大変貴重な土器であると言えます。一部に赤い採色された部分と黒い漆のような部分が残っています。



東御市文書館・文化財展示室に展示中

ぜひ、東御市文書館の文化財展示室に、実物を観にお出かけください。

【久保田（くぼた）・宮の反（みやのそり）・善福寺（ぜんぷくじ）遺跡】（1994発掘調査）



久保田・宮の反・善福寺遺跡全景

団体営ほ場整備事業瀬下地区の実施に先だつ発掘調査が行われました。善福寺跡の部分は、残念ながら工事中に見つかっており、詳細は不明です。工事で発見された3つの壺には、いっぱい焼骨が詰まっていた。

1. 灰釉陶器
(かいゆうとうき)
四耳壺
(しじこ)



2. 常滑焼
(とこなめやき)
壺



3. 常滑焼
(とこなめやき)
壺



- 経文の書かれた焼骨
(南無阿弥陀仏)



(文書館にて展示中)

写真3の常滑壺に入っていた焼骨の中には、経文が書かれた骨片がありました。壺の時期より、中世の後半で室町時代頃の蔵骨器と考えられます。骨に経文が書かれている事例は、非常に珍しいとされますし、梵字が書かれた骨片もありますので、ぜひ文書館で実物をご覧になって下さい。